

古代ローマ都市遺跡における3次元計測技術の実践と活用

味岡, 収

<https://doi.org/10.15017/1654611>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏名	味岡 収			
論文名	古代ローマ都市遺跡における 3次元計測技術の実践と活用			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	氏名 堀 賀貴
	副査	九州大学	准教授	氏名 志賀 勉
	副査	九州大学	教授	氏名 菊地 成朋

論文審査の結果の要旨

本研究は、従来の実測法ではフィルタリングと呼ばれる記録者による取得情報の取捨選択が記録の欠如や誤りの原因となっていたことを指摘し、新3次元計測技術によりフィルタリングが発生する余地を最小限に抑え、既存の記録図を改訂・更新できること、さらに既往研究の見直しや全く新しい見解をも導く可能性があることを示した。また、工学と考古学や歴史学との連携を視野に入れた今後の展開や発展性への期待も含めて、本論の学際的価値は高く評価でき、西洋建築史・都市史に貢献するところが大きい。よって、本論文は博士（工学）の学位に値するものと認める。